

令和6年度あきる野市タウンミーティング 主な懇談内容

1 五日市ファインプラザ 第3研修室 <令和6年10月3日(木)開催>	
① 指定避難所について	
Q	増戸の指定避難所は、いずれも秋川の北側に立地している。秋川の南側に住んでいる人は、災害発生時に川を越えて避難することは困難であり、実態にそぐわないのではないかと。市として考え直してもらいたい。
A	実態とそぐわないところは見直す必要がある。令和元年の台風第19号の際には、自主的に町内会・自治会の会館に集まった例もあると認識している。こうしたことを踏まえ、柔軟に対応できるよう考える必要があると思う。
② 地域の防災活動について	
Q	現状、地域の防災活動は防災・安心地域委員会に委ねているため、町内会・自治会加入者対象の活動になってしまっているが、本当は未加入者にも参加してもらわないといけない。このことについて、市はどのように考えているのか。
A	ご指摘のとおりであるが、防災活動や町内会・自治会の運営などに参加・協力を促す気運醸成は難しい。近年、自然災害も増えていることから、人的な限界も感じており、防災に関して専門的に取り組む危機管理監を新たに配置し、体制強化を図ることとした。 冒頭に述べた気運醸成については、皆様の力を借りながら議論していきたい。
③ 防災教育における地域と学校の連携について	
Q	防災活動における地域と学校の連携について、学校の体育館を借りることが難しく、ファインプラザの施設を利用しているとの話を聞いている。学校側の理解を得られるよう、防災教育に力を入れてほしい。市全体で協力してもらえそうな体制をつくってほしい。
A	増戸地区は防災教育が盛んであると認識している。こうした状況を踏まえ、防災教育を教育課程に位置付けることで、防災教育をさらに進めていきたい。
④ 阿伎留の四季の跡地について	
Q	現在、空き施設となっている阿伎留の四季について、市はどのように考えているのか。
A	阿伎留の四季については、都市づくり公社が所有する施設であり、現段階において、市で購入することなどは考えていない。この施設の今後の処遇については、今のところ決まっていないと認識している。
⑤ ふるさと工房の旧本館について	
Q	ふるさと工房の旧本館の今後について、市はどのように考えているのか、陶芸を復活させてほしいと思うがいかがか。又は、美術館はどうか。
A	ふるさと工房の旧本館の今後の利活用方策については、まだ決まっていない。全てを市がやるという考え方に拘らず、民間活力を生かすことも考える必要があると感じている。
⑥ キャラクターの活用について	
Q	キャラクターを生かしたまちおこしをしてほしい。タンク・タンクローや三ヶ島葎子さんなどの市にゆかりのあるキャラクターや人物を、来年の市制施行30周年の事業に生かしてほしい。
A	キャラクター等の活用については、意見として承る。

令和6年度あきる野市タウンミーティング 主な懇談内容

⑦ 武蔵引田駅南口の開発について
Q 市の発展と人口増加に向けて、武蔵引田駅の南口の平地を開発してはどうか。
A 日本全体で人口減少が進んでいる中、当市だけ人口を増やすということは非常に難しい。まずは、人口減少に歯止めをかける必要があると考えている。武蔵引田駅の南口については、市全体のまちづくりを考慮しながら検討していきたい。
⑧ 増戸地区の医療機関について
Q 市民アンケートの結果を見ると、市民は保健、医療の充実を望んでいる。増戸地区には医療機関が1つしかない。医療機関がもう1つあれば良いと思うが、市の考えはいかがか。
A 病院や診療所は、一般的に法人や個人が設置する施設なので、市として整備することはできないが、病院等の立地に関する相談等があれば、支援をしたい。
⑨ 消防団について
Q 消防団員が減ってきている。昔のような活気のある消防団になってほしい。アメリカでは消防団はスーパーヒーローとして扱われている。市でもそうになってほしい。
A 消防団の活性化については、難しい課題である。消防団の魅力や意義を示していくことが大切だと思う。市内に若者がいないということではなく、地域とのつながりががないため、加入に躊躇する部分もあるのだと思う。若者と地域との人脈をつくり、加入促進することが重要だと思うので、市でも積極的に支援していきたい。
⑩ インクルーシブ公園について
Q 障害がある人でも遊べるインクルーシブ公園をつくってほしい。
A インクルーシブ公園の設置については、既存の公園の活用も考えられるので、研究していきたい。
⑪ 聖地巡礼について
Q アニメの聖地巡礼を実施してはどうか。
A 映画「五日市物語」のロケ地マップを作成し、市ホームページに掲載している。アニメの聖地巡礼もそうだが、日本には1つのことを突き詰めるという文化があるので、そういった方々にコミュニティ同士で集まってもらい、盛り上がってもらうことで、取組につながる面もあると思う。
⑫ SNSの活用について
Q Vチューバーの活用やクラウドファンディングなど、SNSを使いながら、地域活性化ができないか。
A SNSも活用していきたいと考えている。現在、整備している五日市駅前拠点施設においても、SNSを活用していきたい。この施設ができることで、トレイルランやロードバイクなどで来た人達も駐車場で着替えている状況が改善され、一定のおもてなしができると思うので、あきる野市は良いところだとSNSで言ってもらえるようにしていきたい。
⑬ モノレールの延伸について
Q 市民アンケートでは、市民は公共交通の充実を求めているという結果が出ている。モノレールの延伸が必要と考える。移住・定住の促進や企業誘致などもモノレールを延伸すれば、進むのではないかと。市としてどのように考えているのか。

令和6年度あきる野市タウンミーティング 主な懇談内容

A 多摩都市モノレールの延伸について、是か非かで問われれば、延伸してもらった方が良いと思う。その一方で、現在、都市計画マスタープランなどの行政計画には、モノレールの延伸に関する記載はない。モノレールを積極的に誘致するとなれば、大きな財政負担が発生する可能性がある。こうしたことを踏まえると、市としても慎重な姿勢をとらざるを得ない。人口減少が進む中、交通の在り方も変わっていくであろうし、沿線自治体の考え方もあり、デメリットにも目を向けておく必要があると思っている。

⑭ 町内会・自治会の加入について

Q 町内会・自治会の加入率が下がっている。行政でも対策を講じて欲しい。加入するメリットが見えない。産業祭等でも加入促進のための周知啓発活動を行っているが、なかなか増えない。

A 町内会・自治会の加入率の低下は、切実かつ難しい問題だと思う。町内会・自治会に加入し、支え合って地域を維持していくことは重要なことであるが、理解してもらえる方とそうでない方がいるのも事実である。市としても対策は必要であると考えているので、地域の方と話し合っ、色々な策を講じていくしかないと思う。